

The Shimonoseki City University Public Relations

下関市立大学広報

大学祭臨時号



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2009年11月16日 大学祭臨時号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>



10月23日から25日まで、恒例の「馬関祭（ばかんさい）」が開催された。大学祭には毎年テーマが決まっており、一昨年は「環～ありがとう」、昨年は「Smile～笑顔の数だけ幸せになるほ～」、そして、今年は「Raise a Revolution～ 22世紀を今、見据えよう」だった。未来の環境問題を踏まえた意識変革への決意である。

はたして、皆の心に革命は起こっただろうか。

下関市立大学名物 ふく鍋

市大名物「ふく鍋」は、入学式、卒業式、そして大学祭で振る舞われる。事の起こりは、市外からの苦学生の多くが、下関で生活をしてフグを食べられないまま卒業して帰郷していたので、最後に一杯でもと、外部の有志団体が卒業式に振る舞ったため。現在は、学祭以外のふく鍋も、大学祭実行委員会が担当している。



準備したフグは40kg



いよいよ調理開始



フグを投入

ふく鍋の材料はシンプル。フグ、白菜、ネギ、豆腐、味噌、うどんスープの素、これだけ。フグは40kgが準備された。市場で予約し早朝に購入する。凍ったフグは、調理を始めるまでに自然解凍。

午後3時過ぎ、調理開始。2つの鍋のうち、片方の湯を沸かし、フグを投入する。



山盛りの白菜とネギ



スープの素



味噌



最後に豆腐

フグに火が通ってきたら、ネギと白菜を鍋に。とくに時間や分量は気にせず、全て目分量。かなり大雑把(笑)。少ししたらスープの素を入れ、さらに煮込む。そして、味噌で最終味付け。



最後に豆腐を入れ、少し煮たら完成。調理担当者達のみみ食いが始まる……。

片方が完成すると、隣の鍋でも作り始める。この時間差が重要。

配布が始まると長蛇の列ができ、お椀約100杯分の大鍋がすぐに無くなる。このタイミングで次の鍋をすぐに配布できるようにしておくのがベスト。なかなかむずかしく、後半、追いつかなくなり、しばらく待つ場面も。



回収した食器は洗って何度も使う



アツアツがおいしい



いよいよ6杯目も終わり

今年は大学祭のテーマに合わせてエコ食器を用いた。準備した箸は100膳だったのですがすぐに足りなくなり、何度も洗うことに。日も落ち、20時を過ぎた頃、好評のうちにふく鍋は終了。この日作った大鍋は6杯。学祭初日の企画として、お祭り気分を盛り上げた。

大学祭実行委員会

ふく鍋を担当する大学祭実行委員会は、総勢100名を超える大所帯。総務部や企画部、財務部など、会社顔負けの組織を率い、大学祭の企画から実行、そして後片付けまで、全てを仕切っている。大学祭以外にも、年間を通じ、地元イベントのボランティア活動に積極的に参加するなど、活動は幅広い。



違法駐車防止のため、大学周辺のあちこちに監視員が配置された。マスクは、新型コロナウイルス対策。

第48回 馬関祭ダイジェスト



今年も、10月23日金曜日の夕方から始まる前夜祭と、24(土)、25(日)の2日半だった。前夜祭は、メインステージにて開会式、クイズ大会、よさこい演舞が行われ、その隣で、鏡割りの日本酒とふく鍋が振る舞われた。キャンパス内にはサークルごとの模擬店が所狭しと並び、ヤキソバや唐揚げ、アイスクリームなど、思い思いの飲食類が販売された。また、初日も含め、全ての日程で夕方から地下音楽室で軽音楽部のライブ演奏が行われた。



24日は朝からいろいろな場所で企画が開催された。メインステージでは、総合メディア芸術研究会のパフォーマンスに始まり、軽音楽部のライブやミスコン、カップルコンテストなど。同時に、グラウンドではドッジボール大会、建物内では合気道部の演舞、演劇部や落語研究会などの発表とともに、公開シンポジウム(下関歴史ブランド「和同開珎」)や体育館での我が家と風犬ナンジャの「お笑いLIVE」。近隣の方々を始め、市大生以外にも多くの来訪者があった。



25日、ステージでは体育会による演舞会、国際交流会ともだち主催の「日本語弁論大会」、夕方からは名物の女装コンテストなどが開催された。建物内では、茶道部の茶会、吹奏楽部の演奏会が開かれた。そして、夜の体育館では、整理番号獲得のために長蛇の列を作った「加藤ミリヤコンサート」で盛り上がった。最後は、小雨が降り始める中、フィナーレの打ち上げ花火と仕掛け花火で幕を閉じた。

時代の中ではいつもと変わらぬ大学祭だが、個人にとっては二度と体験できない2009年の2日半。心に変革は芽生えたのだろうか。

サークル紹介



吹奏楽部

今年、吹奏楽コンクール中国大会出場を果たしたが、環境はまだ整っていない。練習場所は主に防音設備の無いホールで、そこを他のサークルが使う場合は空き教室で行なう。夜のA講義棟は、あちこちの教室からいろんなパートの音色が聞こえてくる。

音洩れを少なくするために、真夏のエアコンの無い教室でも窓を閉め切る。また、学外演奏の際に使用する学校のバスは、運動部と重なるとそちらが優先されることもあり、なかなか思うようにならない。そもそも楽器も不足している。とはいえ、4年生を含めた部員44名はアットホームな雰囲気、皆、苦勞を楽しんでいるようですらある。

演奏会は、コンサートやコンクールなど、ほぼ毎月。学内では入学式と卒業式にも会場に演奏する。練習は自由参加で毎日2、3時間。イベントによっては歌やダンスを披露することもあるので、そちらの練習も欠かせない。

最後に部長の上島さんから。「大学で新しい夢を見たい人や音楽の好きな人は、吹奏楽部で夢を奏でましょう」。



放送部

地元コミュニティ FM局で番組を持ち、毎週木曜夜8時から1時間の放送は、土曜日に2時間かけて収録される。

番組は、市大情報を中心に、さまざまな話題をメンバーのおしゃべりで繋ぐスタイル。毎週5、6人が交代で担当していくため、音楽や雑学などへのこだわりが週によって異なる。放送部のブログ(http://blog.livedoor.jp/u_jam/)に掲載される収録毎のメンバーと内容を見て、趣味の合うパーソナリティを見つけるのも楽しみの一つだ。

現在の部員数は、1年生18名、2年生8名、3年生8名の計34名。全員一斉の合宿は行わず、グループ単位の旅行などに自由参加する。また、外部イベントの司会なども行っている。「企業からの依頼を始め、何の司会でも請け負います」と部長の高橋さん。

現在、ポッドキャストの製作を予定している。機材不足や曲の使用制限など、ラジオ放送とは異なり戸惑う面もあるけれど、その分、自由な内容を期待できる。将来的には深夜の長時間放送などもやってみたいと、今後の企画は目白押し。

サークル紹介



男子バレーボール部

部長の山村さんは「女子バレーに比べると男子はイマイチ競技人口が少なくて……」と苦笑する。部員は17名（うちマネージャー4名）。最近の成績は、中国四国大会ベスト8、北九州・下関地区大会3位、春季山口県リーグBリーグ優勝と上り調子な上に、中国リーグ2部昇格という目標もあるので、今後の部員確保は必至。

練習は週5日。春休みは徳地と油谷で、夏休みは阿蘇と萩で合宿を行った。「市大はスポーツ推薦入試やスポーツ系の学部があるわけではなく、部活・サークル活動は自主的な活動。その分、やる気次第でいくらかでも充実させることができるし、うちはバレーボールに本気になれるメンバーが揃っている」。

監督の指導のもとでの練習には、厳しい中にも向上心に満ちた充実感がある。

「大学はやろうと思えば何でもできます。もしかしたら人生の中でこれだけ自由な時間があるのは学生のうちだけかもしれません。時間があるからこそ部活・サークル活動に取り組んでみてはどうでしょう。良ければ、一緒にバレーボールを！絶対に後悔させません！」。



応援団

現在、団員は4名。「昔みたいに、強制的に入団させることもできませんから」と、城井団長。団員減少は他大学でも同様の悩みようで、九州の7大学とともに、「九州応援推進ネットワーク」を結成した。他大学の応援団同士の繋がりを強くし、11月も熊本大学など、各地の大学祭にて演舞を披露する。

普段は、昼休みのグラウンドで四股立ちと発声練習。キャンパスに声が響き渡る。

「応援団の伝統と現在の時代性とのギャップに戸惑う部分もある」と、代々受け継がれる制服に身を包む団員達に悩みは多い。その姿から「バンカラ」といった昔ながらのイメージをひきずるが、実際はシゴキや怒声のない、和やかな「硬派」。そこがなかなか表現できずにいる。

学内では、入学式、大学祭、卒業式と、大きな行事には必ず登場し、大勢の前でも威風堂々としている。「何事に対しても、とくに自身に自信がつかます」。他人を応援するには、どんなに劣勢でも弱気になれない。応援団はその強さを己自身で表現している。

入試情報

アドミッションポリシー

1. 教育理念・目標

下関市立大学は、学生の「学ぶ力」を高めつつ、地域に根ざし、東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育を実践することによって、現代社会に適応しうる創造的で教養豊かな高度職業人の育成を目標としています。

2. 求める学生像

- (1) 下関市立大学の教育理念と目標を十分に理解している
- (2) 社会の多様な問題に関心をもっている
- (3) 主体的に学ぼうとする意欲をもっている
- (4) 個性的でチャレンジ精神に富んでいる

3. 各学科のアドミッションポリシー

経済学科は、現代の経済社会への理解を深め、国内外の、さらには国内の地域・地方が抱えるさまざまな問題に的確に対応しうる創造的な経済人の育成を目指しています。今日、われわれを取り巻く国内外の環境は大きく変貌しつつあり、さまざまな問題が生じています。本学科は、現代社会が当面する社会的、経済的諸問題を学問的に学ぶための基礎学力を備え、さらにそれらの問題の解決に向けて積極的に関与していかうとする意欲を持った学生を求めています。

国際商学科は、商学、経営学、会計学に関する専門知識ばかりか、東アジアを中心とする国際交流に適応しうる豊かな国際感覚や、企業等の経営や社会生活の上で不可欠な情報処理能力を身につけた職業人の育成を目指しています。本学科は、そのような人材の育成のために、現代におけるビジネスの世界に興味を持ち、語学能力や数的処理能力などに関する基礎学力を備えた学生を求めています。

一般選抜

◆ 前期日程

募集人員：経済学部 経済学科 60名 国際商学科 60名
選抜期日：平成22年2月25日(木)
試験場：下関試験場・大阪試験場
出願期間：平成22年1月25日(月)～2月3日(水)※当日消印有効
出願方法：書留速達による郵送
合格発表：平成22年3月4日(木)午前10時

◆ 公立大学中期日程

募集人員：経済学部 経済学科 96名 国際商学科 96名
選抜期日：平成22年3月8日(月)
試験場：下関試験場・大阪試験場・高松試験場・福岡試験場・鹿児島試験場
出願期間：平成22年1月25日(月)～2月3日(水)※当日消印有効
出願方法：書留速達による郵送
合格発表：平成22年3月21日(日)午前10時

◆ 学生募集要項の請求方法

- 来学する場合：入試班窓口で配付
請求及び問い合わせ：入試班(083)252-0289
E-mail:kyomu@shimonoseki-cu.ac.jp
- 大学ホームページから請求する場合
テレメールを利用して資料請求ができます。
詳しくは本学のホームページ
(<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>)をご覧ください。

※新型コロナウイルスによる追試情報もHPをご覧ください。

平成23年度 公共マネジメント学科新設予定